

学校適正化・老朽化 対策計画への思いは

高松 幸雄議員



子どものため強い使命感で計画を進める

教育長

図表 34：小中学校の主要建物の建築年数(令和5年6月現在)

学校名	棟別	棟	建築年数	経過年数
永和小学校	北校舎	東棟	昭和46年	52
市江小学校	南校舎	西棟	昭和50年	47
佐屋小学校	南校舎	東棟	昭和40年	58
佐屋西小学校	南校舎	東棟	昭和56年	42
立田南部小学校	南校舎	西棟	昭和35年	62
立田北部小学校	中校舎		昭和37年	60
八輪小学校	本校舎		昭和54年	44
園治小学校	本校舎		昭和55年	43
北河田小学校	北校舎		昭和46年	51
勝幡小学校	北校舎	東棟	昭和42年	55
草平小学校	北校舎	西棟	昭和45年	52
西川端小学校	南校舎	西棟	昭和49年	48
永和中学校	北校舎	西棟	昭和44年	53
佐屋中学校	北校舎	西棟	昭和46年	52
立田中学校	北校舎	中棟	昭和45年	53
八開中学校	東校舎		昭和50年	48
佐織中学校	校舎棟		平成18年	17
佐織西中学校	西校舎		昭和55年	43

▲小中学校の主要建物の建築年数(令和5年6月現在)

問 令和6年度本市内小学校入学児童数の状況と卒業後に清林館中学校をはじめとした市外の中学校へ進学した人数は。

答 新入学児童数は、佐屋小96人、佐屋西小44人、市江小35人、永和小38人、立田南部小20人、立田北部小13人、八輪小15人、開治小10人、北河田小52人、勝幡小30人、草平小45人、西川端小38人。愛西市立中学校以外

の中学校へ進学した児童は24人、清林館中学校へ進学した児童は10人。

問 6年度から13年度までの市内小・中学校に入学する児童数及び市内中学校に入学する生徒数の推移は。

答 市内小学校に入学する児童数は、6年度436人、7年度以降は見込みとして、7年度442人、8年度428人、9年度

334人、10年度390人、11年度348人と推計している。

市内中学校に入学する生徒数は、6年度470人、7年度443人、8年度487人、9年度452人、10年度443人、11年度は433人と推計している。

問 第1期基本計画にある立田中と佐屋中を統合して現在の佐屋中の場所に新たな中学校を配置、立田南部小と立田北部小を統合して現在の立田中の場所に新たな小学校を配置するという小・中学校統合施策を実施した場合、維持管理費と更新費用はどのくらい縮減するのか。

答 立田南部小、立田北部小、八開中の過去3年間の維持管理費を平均して算出すると1年間で約

5200万円が縮減される。更新費用は愛西市公共施設等個別施設計画に基づく費用単価で算出すると、今後20年間で約17億円縮減される。

問 基本計画が策定され、具体的に動き出すが、教育長の意気込みは。

答 適正規模化によって小学校の複式学級の心配を解消しながら新たな小学校区の新しい学校を地域に残したい。築後50年を過ぎた多くの学校施設の老朽化は進んでいく。未来を担う本市の子どもたちのために強い使命感を持ち計画を進めていく。

その他の質問

●医療的ケア児の環境整備を